

編集 環境パートナーシップちば
代表 加藤賢三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境啓発チーム
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969



だより

— つながれ ひろがれ —

年頭にあたって

千葉県環境生活部長 石渡 哲彦



明けましておめでとうございます。

環境パートナーシップちばの会員の皆様には、日頃から地域での環境学習や環境保全活動の推進に大変なご尽力を頂いておりますことに深く敬意を表します。

さて、県では、「環境づくり日本一」を目指し、これまで、三番瀬円卓会

議による三番瀬再生計画の検討、都道府県で初めての里山条例の制定、県独自の「廃棄物処理適正化条例」や八都県市共同で取り組んだ「ディーゼル条例」の制定、ちば環境再生計画に基づく事業の実施など、様々な取組をしましてまいりました。その一つひとつの事業には、県民の皆様の意見を反映し、また、一緒になって実行していかなければ効果はあがっていきません。環境問題は、行政・企業・県民一人ひとりがそれぞれの立場においてできることを行い、協力し、社会全体でその解決に向けて努力していく必要があるからです。

ところで昨年は、このような考えに立つ一つの法律が制定されました。昨年6月に議員立法で成立したいわゆる「環境保全活動・環境教育推進法」です。この法律は、環境問題の解決には、県民・事業者・民間団体の環境保全活動や環境教育を盛んにしていく必要があります。そのため仕組みづくりなどが定められています。

考えてみれば、私たちが子どもの頃は、身の回りの自然の中で遊び、自然に親しみ成長したものです。その大切さも、そのような経験がないと生まれてこないものです。今、熱心に環境学習や環境保全活動を進めている多くの皆様も、そのような経験をされていると思います。参加体験型の環境学習・環境教育の重要性が言われますが、特に子どもには実体験に基づく教育が重要です。県ではエコマインド養成講座などを通じ、地域や学校での指導者の養成に努めていますが、今後

も環境学習に力を注ぐ県民・NPOや企業と連携して、環境学習を推進していきたいと思っております。

一方、20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を作ってきたのも、また我々の世代です。自然の浄化・再生能力を超える社会経済活動は、環境にさまざまなひずみを生じさせています。特に地球温暖化の問題は、人類の未来にとって深刻な問題です。すべての人が地球温暖化について正しい知識を持ち、危機感を持って環境に配慮したライフスタイルに変えることが必要です。

昨年12月には、第1回の「地球温暖化対策地域推進全国大会」が幕張で開催され、全国から「地球温暖化防止活動推進員」を中心に約400名が出席し、それぞれの地域での活動状況などについて情報交換が行われました。地域で普及啓発活動を行う推進員の役割は、ますます重要になってきています。本県でも、千葉県環境財団を「千葉県地球温暖化防止活動推進センター」に指定するとともに、現在261名の方を推進員にお願いしており、今後とも県民、NPO、事業者などと連携して、温暖化防止に取り組んでいきたいと思っております。

次に、千葉県環境財団に設置されている「ちば環境再生基金」ですが、当初に予定した事業の全てが開始しました。昨年の暮れにはNPO環境活動への公募助成の4回目の募集を行い、なのはなエコプロジェクトは2期目に入っています。負の遺産対策事業も養老川妙香地先に廃棄物処理法の施行前に処分された廃棄物対策への支援と印西市の不法投棄された硫酸ピッチの撤去への支援を決定しました。市町村が地域と一体となって実施する自然再生事業への助成も今年の1月に募集したところです。

基金の造成については、環境関係のイベントでの募金活動や県内事業所での職場募金などによって、基金への賛同の輪が広がっています。県としても、この基金への活動を通して、県民一人ひとりが自然の保全と再生に対する関心を高めていただくことを期待しており、今年も積極的に基金の活動を支援してまいりますので、皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

『印旛沼をきれいにするために』

環境パートナーシップ代表 加藤 賢三

「環境パートナーシップちば」では、「印旛沼をきれいにするためのアダプト制度の導入に関する調査報告書の作成」ということで、昨年9月「LOVE OUR BAY 募金」に交付申請を行い認められました。

事業計画および実施スケジュールについては、千葉県民の水瓶である印旛沼の浄化のため印旛沼および印旛沼に注ぐ河川について、アダプト制度によるクリーン作戦を導入していくための先進事例の調査を行うこと。そして、それに関するセミナーの開催。先進事例として、諏訪湖その他の見学。今年の9月までに、調査した結果を報告書(2000部)にまとめる、というものです。

どうすれば印旛沼はきれいになるのか？

アダプト制度を印旛沼に適用し、市民が行政と事業所と一緒に力を合わせてクリーン作戦を行っていくモデル事業にすることが大切と考えています。

まず、印旛沼を知る、と言う企画からはじめます。2月20日のエコサロンにおいて、(財)印旛沼環境基金の本橋敬之助氏に「印旛沼 むかし・いま・これから」のテーマで、お話を伺います。当日、当該事業計画の打ち合わせが出来ればと思います。

ちなみに、諏訪湖については、すでに「諏訪湖アダプトプログラム」として2002年2月に募集開始。5月初旬には64団体が参加し、10月の時点では、延べ活動回数が140回、4,500人の動員を見えています。

アダプト制度

アダプト制度は、1985年に高速道路に散乱するごみをきれいにしようとアメリカで導入され、清掃美化活動として定着してきました。アダプト(Adopt)は直訳では「養子」と云う意味です。本来、市などが管理する公共の公園や道路、河川、空き地などの場所を「子供」に見立てて、「里親」になってくれるボランティアとの間で養子縁組を結び、自主的な清掃・美化活動をボランティアに託すのがアダプト制度です。

八千代市のアダプト制度

八千代市は、市民が愛着を持っている身近な公園や道路、河川などの里親になり、清掃・美化活動を推進する「環境美化里親(アダプト)制度」を2003年7月に導入しました。

八千代市では団体数41、個人数8、場所総数56、延べ人数1812名がアダプト制度に参加しています。

花輪川プロジェクト

花輪川は都市型準用河川で八千代緑が丘駅周辺に源を発し、桑納川をへて新川にそそいでいます。やがて、その水は水瓶としての印旛沼へゆき、千葉県民の飲み水になっています。

この花輪川をホテルもメダカも棲める、市民の楽しめる水辺にすることが本プロジェクトの目的です。NPO法人八千代オイコスが昨年7月に花輪川の里親になりました。

印旛沼再生緊急行動計画

折りしも、2月3日には、印旛沼流域水循環健全化会議による印旛沼再生緊急行動計画の発表会が佐倉市音楽堂で開催されました。緊急行動計画は、印旛沼の現状に対し、住民と行政が一体となって、2010年を目安として早期に実現可能な取り組みと、その役割分担を明確にした「緊急行動計画(中期構想)」を策定し、取り組みを開始する、と言うものです。

環境パートナーシップちばは、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもとで、相互の情報交換と交流を深め、市民団体、市民、行政、企業および専門家とのネットワークとパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としています。今年で7年目に入り、環境シンポジウム、エコメッセちば、地球温暖化防止、環境再生、資源循環型社会の構築に向けてなど、持続可能な活動を続けています。

15年度の事業部計画では、当初から主要テーマは「水」でした。その流れで、15年度から16年度に向けても、基本路線は変わらないものの、特に、これからは、印旛沼をきれいに、ということが柱になっていきます。

当会では、2010年を目安として早期に実現可能な取り組みの一つとして、印旛沼にアダプト制度を！をスローガンに掲げて行きたいと思っています。



自然体験活動リーダー養成、130名に

NPO法人千葉自然学校発足 根っ子ワークの会員をネットワークして

昨年9月に発足したNPO法人千葉自然学校は事務所を千葉教育会館におき、初年度のスタートを切りました。11月から、大多喜町、富津市、館山市、袖ヶ浦市、栄町、佐倉市において自然体験活動リーダー6時間講習を行い、農林水産業、体験等経験者のコンリーダーを養成し、ついで、昨12月、今年1月に、長南町と千葉市において2泊3日のリーダー講習会を行いました。これまで130名の修了者が誕生したことになります。

さらに、親子食育体験講座 見て！作って！食べよう、千葉の美味しいものを、千倉では千葉の魚を、千葉市では「私の田舎」谷当工房で米とにんじん料理を題材に、それぞれ12月と1月に行いました。引き続き2月11日に佐倉市で、千葉県の大豆と落花生をテーマに親子で体験しながらの楽しい講座を行います。また、医療機関などとの共同企画で、健康づくりツアーを2月17日～19日に行い、海辺や里山での運動や自然体験を、インストラクターの指導や病院による実践健康講座などで行う予定です。

千葉自然学校は、企画を行う一方、既に自然体験をしている個人、団体とネットワークし、千葉県の自然、産業、伝統文化、景観などを生かした体験活動を活発

に行うことを基本目標として発足し、理事や協議会メンバーは、そのネットワークを組むべく多彩な活動を行ってきた方々によって構成されています。例えば、沖縄サンゴを見守る会と海ほたる観察倶楽部の三瓶雅延氏は、本格的な海辺の案内人を目指す、海辺鑑定団の設立を進めています。富津の道の駅枇杷倶楽部の鈴木勇太郎氏、和田町でくすのき王国を運営する黒川和之氏、岩井民宿組合の井野宏一氏、「私の田舎谷当工房」の千葉の金親博氏、NPO法人大山千枚田保存会の石田三示氏、館山市の観光プロデューサーの浅井信氏、たてやま海辺のまち、街の活性化に取り組む辰野方哉氏、谷津田を復元して酒米作りをすすめる竹之内義郎氏、それに環境パートナーシップちばの横山、高橋が加わり、又全国的視点から千葉を位置づける為に年間25000人を受け入れの実績をもつ国際自然大学の佐藤初雄氏、など多彩なメンバーです。理事長には日本環境教育フォーラム専務理事の岡島成行氏、事務局長には遠藤陽子氏があたります。

ひろく開かれたNPOとしてこれからの楽しみです。
高橋 晴雄 記

私たちは、去る12月16日、栗山川漁業協同組合の大木さんの計らいで、鮭の遡上と捕獲の様子を見る機会に浴しました。早朝6時、千葉県光町栗山川の川口から、800～1000m上ったところまで船を引いて、前日仕掛けた網に鮭を追い込み、栗山川橋の堰で捕獲するところです。10月18日から始まった捕獲は連日、2～30匹、総量は750～1000匹になるといいます。この日も20匹を超える鮭が捕獲され、そこから3km離れた栗山川漁業組合の大木さん宅まで運ばれ、目方を量り、メスは卵を取り出しイクラが受精されている様子も見ることが出来ました。

これは県から鮭の捕獲と調査を委託された漁業協同組合の仕事となっています。

栗山川は、太平洋岸で最も南限の遡上の川ですが、現在の堰には、大きな段差があり、鮭は上れず、此处でうろろうしている鮭の様子が語られました。魚道つきの遡上が可能な河口堰が完成するのは2005年、つまり上流に鮭が上るまであと2年かかるという事です。魚の生態系が河川事業で阻害され壊れたままになってきたなかで、漁業組合や行政、関係者の努力は並ではないといえます。

『栗山川』は鮭が上る川としてロマンと夢を、千葉県に住む私たちにもたらすでしょうか。砂石地域が適切な産卵場所として上流に用意されなければ

なりません。栗源町には適切な場所があるといいますが、しかし、産卵場所がコンクリートの三面張りだったり、川にゴミが流れ込んだり、あるいは田んぼに水が少なく、浄化作用がない水が流れ込んでいる状況で、果たして産卵が出来るのだろうか、案内してくれた桜宮自然公園の所さんは夢を語りつつもこのような不安も述べていました。これからは、上流域では鮭の身になって考えてみる必要があると。鮭が上流域に上る日が来るまで、栗山川流域の町村でどんな取り組みがなされるのか、大切な2年間になりましょう。

尚、この様子を私は学生に語ったところ、次のような感想文が寄せられました。岩手県出身のこの学生と同じ気持ちになりさえすれば明るい見通しになる事請け合いなのだが。

『先生の話した、鮭が千葉の川にも産卵に来たという話を聞いて、自分の地元のことを思い出した。私の地元の川にも鮭が産卵に来るからだ。そのため川の近所に住むおじさんが川をきれいにしようといい、川のゴミをとり、川の水をきれいに毎日掃除をしている。その姿に私は感動した。毎日朝、夕方と二回川に落ちているゴミをひろい、それでもゴミはたくさんで、私もおじさんの力になれないかと思った。川がきれいになり、鮭が又この川に来てくれる事を願って。』

鮭の栗山川

NPO 千葉自然学校
高橋 晴雄

学校で “ビオトープづくり” をどう進めるか

平山 明彦

市原ネイチャーゲームの会・環境再生医（上級）



イラスト：渡辺正樹

1.はじめに

地球の温暖化地球の砂漠化や野生生物の減少などが毎日のニュースで取り上げられています。しかし、子ども達がこれらの問題を実感することはありません。教科書、テレビや雑誌の映像で見るだけです。

授業の中で、生きものが生きていくのに必要な「場（環境）」を学びます。その学習の後に、生き物の生息の場が学校内にあるかどうかを調べて見ましょう。この問いかけが学校でのビオトープづくりの第一歩です。これらの場がある場合には、その場を守ると共に、さらに多くの種類の生物が棲めるように工夫しましょう（これもビオトープです）。乏しい場合には新たに場（ビオトープ）づくりを考えましょう。子どもたちの手で学校に生物生息空間を創って、少しでも多く、数ではなく多様な生物が棲む場所を学校につくりましょう。学校ビオトープは「生きもの好きの先生」のものではありません。子どものためのビオトープです。

2.教育的視点から

教育的視点から学校におけるビオトープを捉えてみると、教育改革の目標と一致する項目が多い。「生きる力」「命」「自然体験」「体験学習」「環境教育(学習)」「総合的な時間」「キレル子ども」「学力低下」「開かれた学校」「地域の教育力」「生き物」などのキーワードは学校ビオトープの取り組みによって解消する可能性があります。特に「総合的な学習の時間」が導入され、時間の確保が保証されていることと、校内で取り組むことの出来る活動です。

1)「いのち」とふれ合う場

ビオトープに関わることによって、生徒たちは野生の「いのち」と直接触れあうことが可能となります。ビオトープを通じて、自然の仕組みを体験し、命の大切さを学ぶだけではなく、他者への思いやりの心を学ぶことができます。

2)環境学習の場

環境教育(学習)のねらいは「身近な環境に関心をもち、自ら環境保全のために行動を起こす人間を育てる事。」です。すでにいろいろの取り組みが行われ、環境学習の教材も指導者も随分ふえてきました。学校ビオトープは、身近で具体的な生き物を対象とした取り組みです。

3)豊かな生態系が全国に出現する。

全国には数万という学校があり、それぞれの学校が校舎の外にビオトープとしての生態系空間（生き物のオアシス）を作り、生き物を保全していく活動を展開すれば、広大な生き物のネットワークが構築されます。

4)地域と一緒に歩む学校づくり

学校ビオトープづくりに、学校だけではなく地域住民の理解と協力、さらには行政や企業の協力を得ることにより、地域ぐるみのパートナーシップ実現のきっかけとなり、街づくりにも貢献し、コミュニティづくりに結びつきます。

5)ビオトープづくりは、学び合いの原点

生徒たちには学校ビオトープづくりは体験学習の場です。資材やそれを使っての作業も初めてのケースが多いと思われます。すべてがワクワクドキドキの学びの場です。完成後とて同じです。そこに集う生きもの、季節と共に変化していくビオトープは「命つながり」を学ぶ場となります。

3.必要な学習プログラム

学校ビオトープづくりには、やはり教育的なプログラムとビオトープそのものをつくるプログラムの2つが必要です。教育的なプログラムでは、ねらうべき生徒像を明確にすることが必要です。そしてその達成までの段階的プログラムを作ることです。多くの場合は、総合的な学習の一環として実施されるケースが多いので、総合的な学習プログラムとしての位置づけと、月別のねらいや活動計画が書かれている必要があります。そして何よりもビオトープづくりは理科だけではなくすべての教科が関わっていくものであるとの合意形成も大切で、それを明示した、クロスカリキュラムのスタイルが必要となります。多くの学校ビオトープをみると、そのスタイルがほぼ決まっています。池を中心に構成されている場合がほとんどです。しかしビオトープが池をつくるという基本パターンになっていくのは問題かと思われます。学校ビオトープは地域の生態系の保全です。オオムラサキの保全に取り組む学校もあって良いのです。そのためには、森林の復元が望まれます。学校の森づくりもビオトープと言えます。ビオ

トープづくりは池づくりではありません。

4. おわりに

新しい指導要領に代わってから、指導内容がかなり削減されてしまいました。特に生態学的な学習については、十分な学習は出来ません。しかし、学校ビオトープは生態学的な知識なくしては理解することは難しいのです。

どうしても最低限の学習は必要となります。特に“生産者”、“消費者”、“分解者”の関係は重要です。そして、食物連鎖や植物の遷移の概念も極めて重要です。こうした学習を総合的な学習の中で取り入れるのが望ましいと考えています。

私たちの周囲では生物の生息空間が、しだいに失わ

れつつあります。単なる緑をつくるのではなく、多様な生物が生息する自然と人間が共生できる場を作り、このビオトープが人間と自然のかかわりについての体験学習の場になればと考えている。

最後に、子どもの参画が学校ビオトープには欠くことのできない視点です。わたしが全国の小学校約200校を調査した結果、子どもが参画して作られたビオトープはごくわずかでした。詳細は「子ども・若者の参画 R・ハートの問題提起に込めて」子どもの参画情報センター／編 萌文社（2002）をご覧ください。どうか「やらせ」ではないビオトープづくりを推進してください。

第19回 子育て文化協同全国交流集会・千葉大会子どもと文化・交流フェスタ

～世代を越えて みんなでつくる 夢のまち～

四街道 小沢 武

なんとも長い名称ですね！？ しかし長い分だけ夢がたくさん実現されたようでした。

この大会は2003年11月29・30日の2日間、千葉大学西千葉キャンパスで開催されました。30もの分科会がありました。私達「自然と友だち」グループは30日に体育館を使用して「一緒につくって、みんなであそぼ！」というコーナーを設置して4つの昔遊びを体験してもらいました。

当日は未明から、もの凄い大雨で体育館の前はプールのような状態でした。この雨では誰も来られないのではと心配しました。しかし10時から閉幕の15時までに実に178名の子供達が来場してくれました。

クリスマス・リース作りは20日程前に四街道市の山でクズやフジのツルを採り、60個分を輪状に作って置きましたが、開幕1時間で完売という人気でした。小学校低学年でも、松ボックリ、ドングリ、フウの実、ヒイラギの葉、鈴、リボンなどで上手く楽しく作り上げる姿に私も感激しました。

お手玉作りでは、佐倉市の川村美術館の近くで採集したジュズダマ10kgを中味にして、それを美しい布で包み、針と糸で縫い合わせて完成です。1人が3個作り昔の歌に合わせて、輝く瞳で嬉しそうに遊ぶ姿が印象的でした。

ワラをなつての、ゾウリ・門松作りにも沢山の親子が挑戦しました。少し困難でしたが「良い匂い！ 感触が最高！」と大喜びでした。

竹細工体験では弓矢・竹トンボ・コップと皿・箸・花差し・貯金箱・竹馬作りなどをしました。弓矢・竹トンボ・竹馬などは広い体育館で思う存分遊べて、お父さん達も童心に戻って楽しんでいました。

年配の方々が大勢指導に来てくださり、17名の大学生も手伝ってくれ、そこにお父さんやお母さんも加わ

り、まさに世代を越えて、夢のような素晴らしい体験が出来ました。

終了後書いて戴いたアンケートの中に「昔のこと、ものばかりで楽しかった」「みんなやさしくしてくれる、つくるときにもやさしい」「自然にあるものをつかって楽しい」「大人も子供も楽しめる良い企画でした」「もっといろいろなことやりたいです」「今度また作りたいたいです」……などと書かれていました。

半年前に企画した時は「古臭くて面白くない」と見向きされなかったらどうしよう、と不安でしたが、全くそうでなかったことに驚き、嬉しく思いました。

私達大人は、もっと自信をもって昔の事、昔の物を今の子供や親に伝承していくべきなのだと思うようになりました。

未来を担う子供達は地域社会の宝であり、その子供達と一緒に遊び、教えてあげられることは私達年配者の生き甲斐にもなることを再認識しました。

テレビゲームばかりしている子供、キレ易い子供が増大しつつある今こそ、子供達が自然界のものに触れ、昔遊び体験をすることは極めて重要であり、「自然体験がないと人は人間になれない」という意識をより強く感じた集会でした。

これからも昔遊びを伝承していきます。その向こうに、かすかに、そしてハッキリと「夢のまち」が見えて来たように思えるのです。

なお、小沢武氏は四街道自然同好会事務局長

（四街道自然同好会については「だより」23号で紹介されています）

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/topics/PDF/kanpa23_6.pdf

H15 エコ ツアー

新エネルギーと古い町並みをたずねて

～ 銚子の風のもたらすもの～

1月23日、環境パートナーシップの年明け最初の行事、平成15年6月のエコサロンでお話を伺った銚子の風力発電見学をメインテーマに銚子へのエコツアーが行われました。(環パちば便り32号を参照)

当日は雲ひとつない快晴ながら北風が冷たい朝9時、ちばNTT前に集合、貸切のJRバスで1時間半、銚子に入ると、巨大な風車4基を横目に見ながら、まずは最初の訪問地、ヒゲタ醤油工場へ向かいました。バスを降りると醤油の香ばしい香り。映像で醤油の歴史や



昔の醤油作りをテーマにした巨大なフレスコ画

製造方法などをみて、工場見学。工場は近代的でコンクリートタンクやステンレスで作られ、すっかり様変わりしていますが、製法の基本は変わらないとのことで、また、絞りがすは燃料として利用、廃棄物は出していないそうです。創業385年記念として作った日本で唯一という本格プレスコ画も見学し、文化を大事にする伝統を感じました。



工場で新旧道具類の模型を見学する

漁港での煮魚昼食、マリントワーからの眺望を楽しんだ後は、市街地を抜けて一面のキャベツ畑の中の千葉産業クリーン株式会社までバスで移動。ここは300トン/1日の焼却炉と管理型最終処分場をもち、下水処理場の污泥や肉骨粉、プラスチックごみなどを焼却し、埋め立てています。污泥や肉骨粉のためか、中はかなり異様なにおいがしていました。私たちの生活と深いかかわりを持ち、今の近代的な生活はこのような処理施設があって初めて可能であることを実感させられました。

銚子屏風ヶ浦風力発電所(日本風力開発(株))はすぐ隣のキャベツ畑の中でちょうど良い強さの風を受け、力強く回っていました。支柱の高さ60mは20階建てのビルの高さぐらい、その上に直径70mで羽が回っているのほとんどに大きい。定格出力1500kWといわれても実感がないが、年間予定電力量330万kWhは900所帯分に相当するそうでした。普段は無人で、この日わざわざ本社から来てくれた方の解説によると、日本での風力発電は風の強い東北や北海道が先行していましたが、銚子では年間平均風速が採算ラインの6mぎ



風車の支柱の中

りぎりだが、年中風があり稼働率が高いことと、海から近く平坦なので大型風車の建設が可能でスケールメリットがあること、国策で新エネルギーとして風力の割合を増やすことに決まったことなどから、01年ごろから多くの風力発電建設が進んでいるそうです。風を受けて回った風車の力で発電機を回し発電。風車に内蔵されたコンピューターが方向や強弱を調整したり、強風の時は停止するように制御し、東京の本社で各地の風車の運転状況を遠隔監視しているとのことです。ここで発電した電力は東京電力に売電するが、コスト的に火力発電の2倍ほどになるといいます。その差を埋めるシステムがグリーン電力証書で自然エネルギーという負荷価値を別に証書化して別の企業に買

ってもらシステムです。この風車はその第1号として大阪のソニービルが1kw5円で購入しています。

さらにバスで20分ほど移動、今度は飯岡風力発電所(M&Dグリーンエネルギー(株))へ。こちらはやや小ぶりで850kw、支柱の中で説明を受けました。外では音はほとんどしませんが、中に入ると発電機の音が大きく、発電していることが実感できます。こちらは関東地方では風力発電で初めてのグリーン電力基金の適用を受けました。グリーン電力基金は自然エネルギーの普及を願う消費者からの寄付金と東京電力からの寄付金で運用され、自然エネルギーの発電施設への助成がされます。

両方の施設ともヨーロッパ製で償却は約10年との見積もり、欧米ですでに20年以上の耐用されていることから、十分採算が取れるという話でした。しかし、まだ電力の質が一定しないことや故障が多いなど課題も多く、更なる技術革新が求められています。日本の技術者に頑張ってほしいものです。

参加者の感想から(一部抜粋)

- ニュースで見た風力発電を実際に見て、支柱の中まで入ってお話を聴き、クリーンエネルギーの問題点もこれからの課題も少し見えるようでした。醤油工場も歴史をたどりながら、またプレスコ画を見たのも楽しかったです。
- 風車下のキャベツ畑の広さにも驚きました。新エネルギーである風力発電に期待が大きいと聞き、一度見学したいと思っていましたので、銚子と飯岡の2箇所で見学できて良かったです。
- 「風力発電で発電したものは電力に安定性がないので電力会社は国の施策により無理に買わされている」とのことでしたが、環境を守るということはそのような政策が必要だと思います。(中略)あふれるばかりの無駄な照明、自動販売機の乱立、テレビの深夜放送など、制約すべきものがいくらかでもあります。マイカーなどは市街地の乗り入れを規制し、街中は公共の交通機関に乗り換えるような政策(ライドアンドパーク)をすべきと考えます。
- 風力発電がどのようにされているか説明を聞き、環境にやさしいエネルギー作りがわかりました。まだまだ電力会社のエネルギーに劣るようですが、さらに

改良されて増えることを望んでいます。

- 風車の中に入る機会なんてめったにないと思いますので良い経験ができました。肉骨粉の焼却施設もテレビなどでは匂いまではわかりませんので良い経験でした。醤油工場では歴史を感じながら学ばせていただきました。
- 風力発電は不安定と言われますが、原子力発電は後世に不安を抱えるので、安全や景観に配慮しながらもっと増えてほしいと思います。
- 日ごろ何気なく出すゴミや明かるすぎるぐらいの部屋の明かり、電気が止まればご飯も炊けない現状に目を向け、一人一人の少しの努力や注意が大きな力に変わることを信じております。
- 無公害エネルギーである風力発電に関心を持っていました。今回の見学や説明でその仕組みを理解できました。いろいろな事業体が参加していることがわかり勉強になりました。
- 多くの方が積極的に参画することで環境の悪化が少しでも防げることを望んでいます。私自身も日常できる範囲で実行して行きたいと思います。

(文責：広報部)

総務部より 運営委員会だより



12月運営委員会(12/19)

○参加行事予定

- 「ちばNPO地域フォーラム」第1分科会「食・農と環境を考える」への企画参加(1/17)
- 「高齢化社会・環境情報センター」利用者会議への参加

○協議・報告事項

- 「エコツアー」の状況報告、企画内容の一部変更
- 16年度事業として「印旛沼水質浄化の環境学習」を企画し、「ちば再生基金公募助成事業の募集」に申請の検討
- 「だより」35号の企画・作業日程の検討
- 「助成金申請書について」の研修

1月運営委員会(1/29)

○参加行事予定

- 印旛沼水質保全協議会・手賀沼水質浄化対策協議会共催による研究会(1/30)にて、加藤代表が事例紹介予定
- 「高齢化社会・環境情報センター」利用者会議への参加

○協議・報告事項

- 「エコツアー」の報告
- 2月「エコサロン」の検討
- 「だより」35号の作業日程の検討
- 「だより」36号の企画・作業日程の検討
- 16年度総会の日程検討
- 「ちば再生基金公募助成事業募集」の申請書提出

お知らせコーナ

エコサロン（環パちば主催行事）

日時：2月20日（金）18：30～20：30
 場所：船橋市女性センター 参加費 500円
 テーマ：「印旛沼 むかし・いま・これから」
 講師：本橋敬之助氏

（（財）印旛沼環境基金、水質研究員）

水道水源として水質ワースト1の印旛沼の浄化への取り組みが緊急課題となっています。これにむけて、環パちばは何かができるか、一緒に探って行きましょう。

なのはなエコプロジェクト講演会

「菜種栽培の実際と資源循環の取り組み」
 日時 平成 16 年 2 月 23 日（月） 13:00～16:00
 場所 プラザ菜の花 3階大会議室「菜の花」
 千葉市中央区長洲 1-8-1

内容

- ・「資源循環から見たなのはなエコプロジェクト
 県環境生活部環境政策課
- ・「菜種の栽培について」
 県海匝農業改良普及センター
 改良普及員 近藤 邦彦
- ・なのはなエコプロジェクト実践事例発表
 エコ・やちまた リサイクルかもめ(御宿町)
- ・資源循環の取り組みについて発表
 大網白里町生活環境課 千葉三港運輸(株)
 問い合わせ、申し込み
 (財)千葉県環境財団 環境再生基金チーム
 TEL:043(246)2078(代)

里山勉強会「里山に託す私たちの未来」

日時：2月14日(土) AM10:00～pm4:00
 会場：千葉県中央博物館 1階講堂 参加費 無料
 主催：里山シンポジウム実行委員会(仮称)。
 連絡先 千葉県庁みどり推進課
 TEL 043-223-3684 FAX 043-224-4108

「環境教育推進法を学ぶ講演会」

開催日 3月7日(日)13:30～4時
 会場 まつど市民活動サポートセンター
 環境教育・環境学習推進法がなぜ必要なのか
 講師 藤村コノエ氏(NPO環境文明21専務理事)

この法案を推進している立場から
 環境省総合環境政策局民間活動支援室長
 講師 滝口直樹氏

申し込み、問い合わせは 氏名・連絡先など明記の上
 中岡 Fax047-385-8950、
 E-mail : naka.hta@trust.ocn.ne.jp

千葉県環境研究センター第10回公開講座

開催日：2月21日(土)13:00～16:30
 会場：千葉県立美術館 講堂
 (http://www.chiba-muse.or.jp/ART/index.htm)
 (千葉市中央区中央港1-10-1)
 テーマ 「物質循環の実現に向けて(総括)」

環境講座を実施するNPOの募集

県では、環境学習を専門とするNPOから環境講座の企画を公募し、その実施を委託する事業を平成16年度も引き続き行う予定です。

募集講座は、一般県民を対象とした「体験型環境講座」(2回実施) 子供を対象とした「こども環境講座」(2回実施)です。

応募資格は、県内に事務所があるNPOで、法人格の有無は問いません。

募集要項は3月末頃に配布、募集期間は4月上旬～5月上旬を予定している。

問い合わせ：県庁環境政策課：TEL 043-223-4139

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。
 広報部連絡先 FAX：047-450-8468(佐藤)
 E-mail : motosato@pop07.odn.ne.jp
 HP : www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団 環境技術部
 環境啓発チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境技術部環境啓発チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて入会します

氏名			
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		

